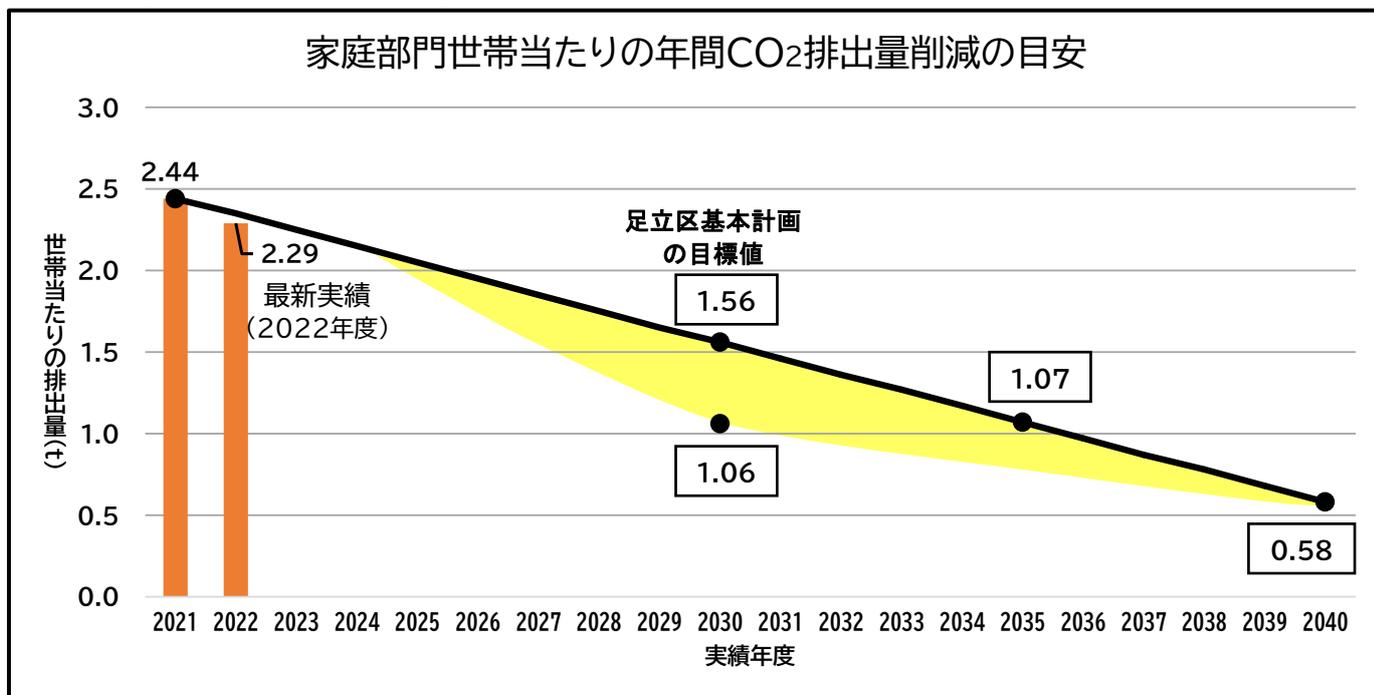


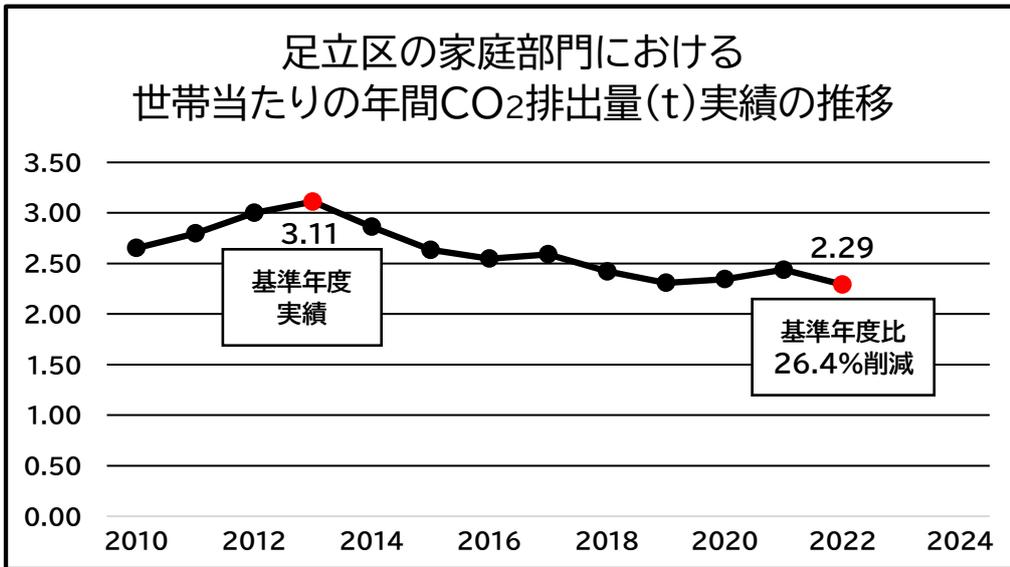
家庭部門のCO<sub>2</sub>排出量関連データ家庭部門における世帯あたりの年間CO<sub>2</sub>排出量の目安（～2040）

- ① 足立区基本計画では現行目標である2030年、2013年度比46%削減から、家庭部門をおよそ50%削減と想定。
- ② オール東京の家庭部門の排出量と対象年度の4月1日時点の世帯数（区HP）を使用。
- ③ 2013年度の家庭部門、世帯当たり排出量  $3.11 \times 0.5 \div 1.56$  を足立区基本計画における2030年度の目標に設定。
- ④ 目標設定時の最新実績（2021年度実績）から足立区基本計画目標値である1.56に直線を引き、さらに2040年度まで延長させた。
- ⑤ 国の地球温暖化対策計画（2025年2月）の部門ごとの削減割合を重ね2030、2040年度の値を推計し、それを含め削減の目安の範囲とした（黄色いエリア）。2040年度は足立区基本計画目標の延長と地球温暖化対策計画の削減率がおよそ一致する。

【国の地球温暖化対策計画の家庭部門の削減目安（2013年度比）】

2030年度：▲66%、2040年度：▲71～81%（下のグラフでは▲81%）





家庭部門の排出量を世帯当たりで見ると 2013 年度（基準年度）から 26%以上減少している。

要因として、技術的進歩（省エネ機器への移行、電気の排出係数の減少等）や世帯当たりの人数の減少が考えられる。

CO<sub>2</sub> 排出量はコロナ禍で一時的に増加したものの、全体では減少傾向

